

会議結果のお知らせ

令和5年度第3回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会を次のとおり開催しました。

令和5年10月4日

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

1 開催日時

令和5年9月25日（月） 午後6時30分から午後8時30分まで

2 開催場所

宮古市市民交流センター 2階 多目的ホール

3 議題

(1) グループワークについて

4 会議の概要

- ・【まち分野】【ひと分野】【しごと分野】【デジタル分野】の検討班にわかれてグループワークを行った。

5 問い合わせ先

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会事務局

宮古市企画部企画課地域創生推進室

電話0193-62-2111（代表） 内線4614 0193-65-7056（直通）

令和5年度 第3回

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会 議事録

1 開催日時

令和5年9月25日（月） 午後6時30分から午後8時30分まで

2 開催場所

宮古市市民交流センター 2階 多目的ホール

3 出席委員（20名）

松田淳、三河輝夫、芳賀桃子、井田裕基、伊東喜幸、八島彩香、山本美鈴、花坂雄大、井川由貴子、黒田雄心、渡部玲子、川又講平、赤沼悦子、成瀬賢紘、中谷杏朱、鈴木ちほ、槻館勇太、長岡輝、中沢翔馬、瀬戸里奈

4 欠席委員（10名）

赤沼喜典、小野寺美賀子、平子昌彦、武藤勝久、上野宏介、佐々木秀崇、加藤洋一郎、石川巧、成田邦敏、菅野悟

5 事務局出席者（7名）

総務部長 下島野悟、デジタル推進課長 西村泰弘、
同課デジタル推進係長 松本 強、同課主事 加藤あかり
企画部長 多田康、企画課長 箱石剛、同課地域創生推進室長 工藤真奈美、
同課主査 竹田真吾、同課主任 佐藤芙生子

6 傍聴者

なし

7 議事等

午後6時30分 企画課長が会議の開会を宣言
委員長挨拶の後、議事に入った。

議事として「(1)グループワーク」を行った。

全体説明の後、各班での検討に入った。

①個人ごとに宮古市の課題について考え、付箋に記載

- ・住みやすいまちになるための課題と伸ばした方がよいところ
- ・魅力的なまちになるための課題と伸ばした方がよいところ
- ・誰もがデジタルの恩恵を受けるための課題

②各分野に仕分けし、各班で、目標と解決方法について検討

A班…ひと分野

【課題】

- ・専門病院が無い
- ・多様性を受け入れるまち（障がい者、高齢者、子ども等）
- ・孤立化しないよう、誰もが集える場所があると良い

- ・地域の子どもの関わりが希薄
- ・短大はあるが四年制大学がない
- ・教育格差をデジタルで解決
- ・何歳からでも新しいことを学び、新しいスキルを身につけ実践し、新しい業務や職業につける機会を（リスクリング）
- ・学びの場の選択肢の増加
- ・市内で短期留学（郷土芸能を学ぶなど、担い手の育成）
- ・授乳室、おむつ替え台のある施設が少ない
- ・小さい子を連れて遊びに行ける場所が少ない
- ・回覧板が大事だけれども、面倒
- ・子育て支援に関する情報発信が少ない
- ・ママサロンはあるが、パパサロンが無い
- ・教育や子育てについて、各年代に関係なく相談しやすい窓口（0歳～大学生まで）※特に小中学生がもう少し欲しい
- ・生活支援型（移動支援）サービスが増えてほしい
- ・家賃の抑制
- ・若者を中心とした地元離れ
- ・教育環境を整えるため、学校の統廃合を進める
- ・若者の出会いの機会の創出
- ・移住してみて良かったということを広くPR
- ・明石市のような子育ての取り組みをして欲しい（おむつサブスク…届けに来た時相談にのってくれる等）

B班…しごと分野

【課題】

▼魅力ある仕事の創出

- ・魅力的な働く場所があると良い
- ・若い人にとって魅力のある仕事が欲しい

▼空き店舗

- ・宮古駅前空き店舗（キャトル等）の有効活用

▼一次産業

- ・頑張っている漁業や農業を売りにして、市民が自信を持って推せるようになれば良い

▼起業

- ・新規創業をしやすい環境を整える
- ・補助金等について、皆が知ることができるように告知して欲しい
- ・成長する産業を育てる

▼多様な働き方

- ・在宅勤務ができる環境を増やす（まずは市役所から）
- ・副業を推進する（行政・企業）

▼人材不足・収入

- ・募集をかけても人が来ない。募集したい人が来ない。
- ・安定して働くことのできる環境
- ・収入の良い仕事があると良い
- ・ゆとりのある子育てが可能な収入を得られる仕事場
- ・実家ありきの賃金水準と産業構造

▼シェアリングエコノミー

- ・生活に必要なものをシェアし、生活コストを下げる

▼物流

- ・2024年問題が間近（高額な送料、物資が届かない）
- ・ウーバーイーツ等、デリバリーや出前などの宅配サービス

C班…まち分野

【課題】

- ・誰でも集える場所づくり
- ・若者が暮らしたくなるような環境
- ・自由に集まって過ごせる場所づくり
- ・認知症の方や高齢者・子どもに気軽に声をかけられるまち
- ・キャトル跡地の開発に期待
- ・キャトルの場所がどうなるか
- ・ひとつのコンセプトに基づいた商店街の整備
- ・街中心部（駅前）に大型施設の誘致・開発
- ・駅中心の街づくり（スーパー、カフェなどが他の場所に比較して少ない）
- ・空き店舗、空家を利用改修または解体など、利用や更新しやすい仕組みにしてみても（費用助成も考慮）
- ・宮古市中心街と郊外地区の格差
- ・病院があまりないので心配（それこそ1番デジタル化してほしい）
- ・専門病院（循環器など）がない
- ・病院がいつも混んでいて大変（オンライン予約、オンライン診療ができるとよい）
- ・病院の待ち時間。順番がわかりづらい
- ・雪が降った時の速やかな除雪対応
- ・アパート探しが大変
- ・アパートに空き部屋が増えており対策が必要

- ・子どもから高齢者まで、一緒に住めるアパート等
- ・家賃が高い
- ・住居関連の情報不足
- ・宮古の代表となる土産物を作ったほうが良い
- ・鉄道・バスの利便性の向上
- ・八木沢・宮古短大駅のアクセスが悪く、利用したくてもなかなかできない
- ・買い物の移動手段が自動車のみのため、免許返納できない
- ・天気が悪くても遊べる場所、観光できる場所をデジタルの力を使い創出
- ・うみどり公園に屋根がある場所があっても良い
- ・人が集まる公園の整備（遊具や健康遊具だけではなく）
- ・地域産の食材を使った給食を増やす
- ・魅力的なまちになるための接客やPR
- ・ラサの煙突の観光資源化（宮古のランドマーク）
- ・レジャーやスポーツ施設の充実（廃校舎の再利用）
- ・観光地としての広報発信
- ・観光客に来てもらえるイベントの開催
- ・外国人観光客向けのイベントの開催
- ・特徴のある秋祭りの開催
- ・体験型観光による誘致
- ・裏道などローカルな道路を市外の人でもわかりやすいようにする
- ・道路が難しい（一方通行が時間で変化したりしなかったり等）
- ・海岸（海水浴場）でのBBQができる環境
- ・生活支援型サービスが増える
- ・コンパクトシティ化を進める
- ・短大はあるが、四年制大学がない
- ・宮古市として、官民一体となったビジョンを持つ
- ・特色ある文化を伸ばす
- ・地域資源をもっと楽しめるようにする
- ・近くに山はあるが、入山禁止など、自然へのアクセスが難しい

D班…デジタル分野

【課題】

▼デジタルを推進するうえでの対策

- ・デジタルサービスを提供しても、デジタルに関する知識がなかったり、デジタル機器を持っていなかったりと恩恵を受けられる人が限られている
- ・デジタルデバイスの使い方を教えられる身近な存在がいない。又は少ない
- ・デジタルが苦手な人の意識の変化

- ・街中で、どこでもWi-Fiが使える
- ・デジタル端末が高い
- ・電波が入らない

▼推進・活用

- ・市の施設を一覧で確認、予約できるシステムの導入
- ・観光地などにデジタル看板を設置し、PRの場とする
- ・病院がいつも混んでいて大変なので、オンライン予約やオンライン診療ができるとうい
- ・市のホームページが、もっと見やすくなってほしい（スマホ版など）
- ・ママサロンを電話申込からオンライン申込に
- ・市役所からアナログな書類が多いから、若い人たちにはもっとデジタルな対応をすれば良いと思う
- ・インターフェースの簡易化（LINEなど）
- ・駅やバス停にあとどのくらいで来るか等、運行情報をデジタル発信
- ・市防災無線の放送内容を各家、各スマホに配信
- ・スーパーなど、人が集まる場所にチラシやお知らせをデジタル発信

▼デジタル化が進んだことによる弊害

- ・デジタル化による、パスワードの取り扱い（忘れる、メモが普通に貼ってある、紙なくす）
- ・ヤマトの集荷ネットは利用できる。使いこなせるかは疑問
- ・必ずしもデジタルだから効率が良いわけではない（対象にあわせた方法で）
- ・デジタルで便利になっても業界がついてこれない

▼その他

- ・他市町村・企業の枠を超えてデジタルの恩恵を受ける環境
- ・会議のデジタル化（紙でやらない。タブレットを貸し出す）
- ・デジタル体験の場
- ・何か専門的な技術や知識を学んだり経験、体験するには市外に出ないといけない

午後 8 時30分 企画課長が会議の閉会を宣言